

はじめに

あゆみ薬局では、薬局の窓口などで得た患者情報を病院に送付するというインフォメーション活動を行っている。これは、薬局薬剤師の視点から見えるものや、患者本人・家族からの相談など、治療を進めていく上で重要だと思われる情報を病院と共有することを目的としている。

# あゆみインフォメーション

得た情報の種類・内容を記載し、処方医師宛に送る様式

あゆみ Information

診療所・病院 \_\_\_\_\_ 科 \_\_\_\_\_ 先生 \_\_\_\_\_

様( \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日生)の処方に関する  
コンプライアンス、副作用、禁忌・相互作用、保険適用上の問題、苦情・トラブル、  
本人・家族からの情報、その他について

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

年 月 日

〒601-8327 京都市南区台津 2-2-2  
TEL 075-681-2917 FAX 075-681-2913

あゆみ薬局

3 連の複写用紙になっている。(病院送付用・薬局カルテ貼付用・薬局ファイル用)

- ・コンプライアンス
- ・副作用
- ・禁忌・相互作用
- ・保険適用上の問題
- ・本人・家族からの情報
- ・苦情・トラブル
- ・その他

の7種類に分類される

(実際は12.5×18cmのサイズです)

## 目的

前回調査(2006年10月)以降に行ったインフォメーション活動を調査し、その内容をまとめたので報告する。

## 調査対象期間

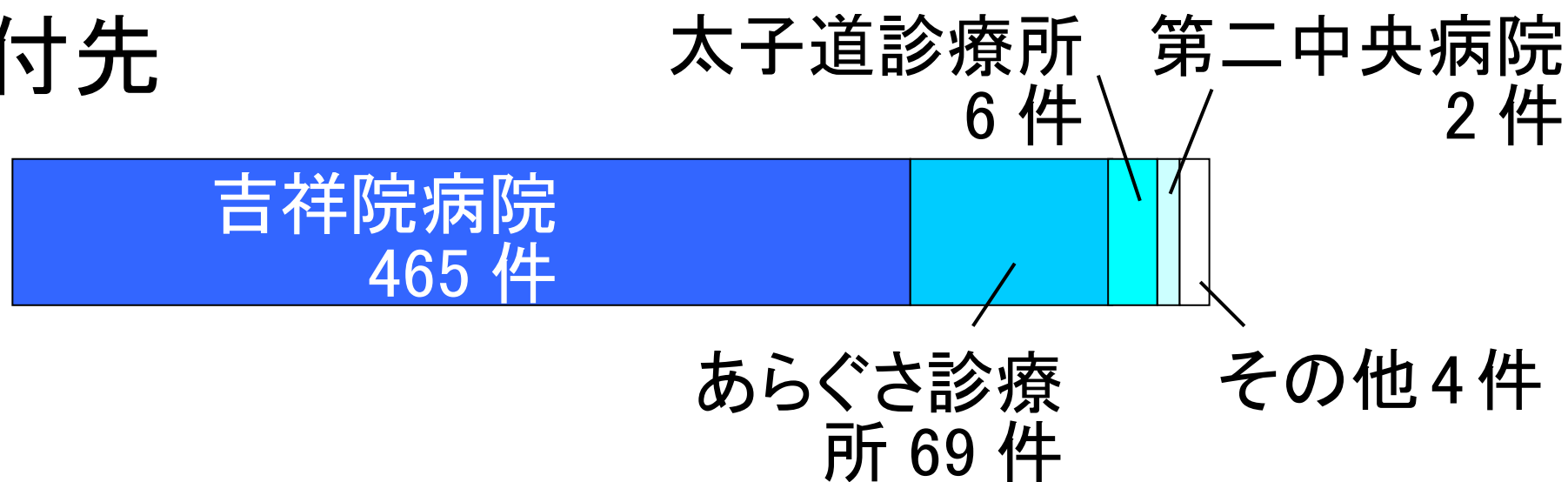
2006年11月～2010年7月

## 結果

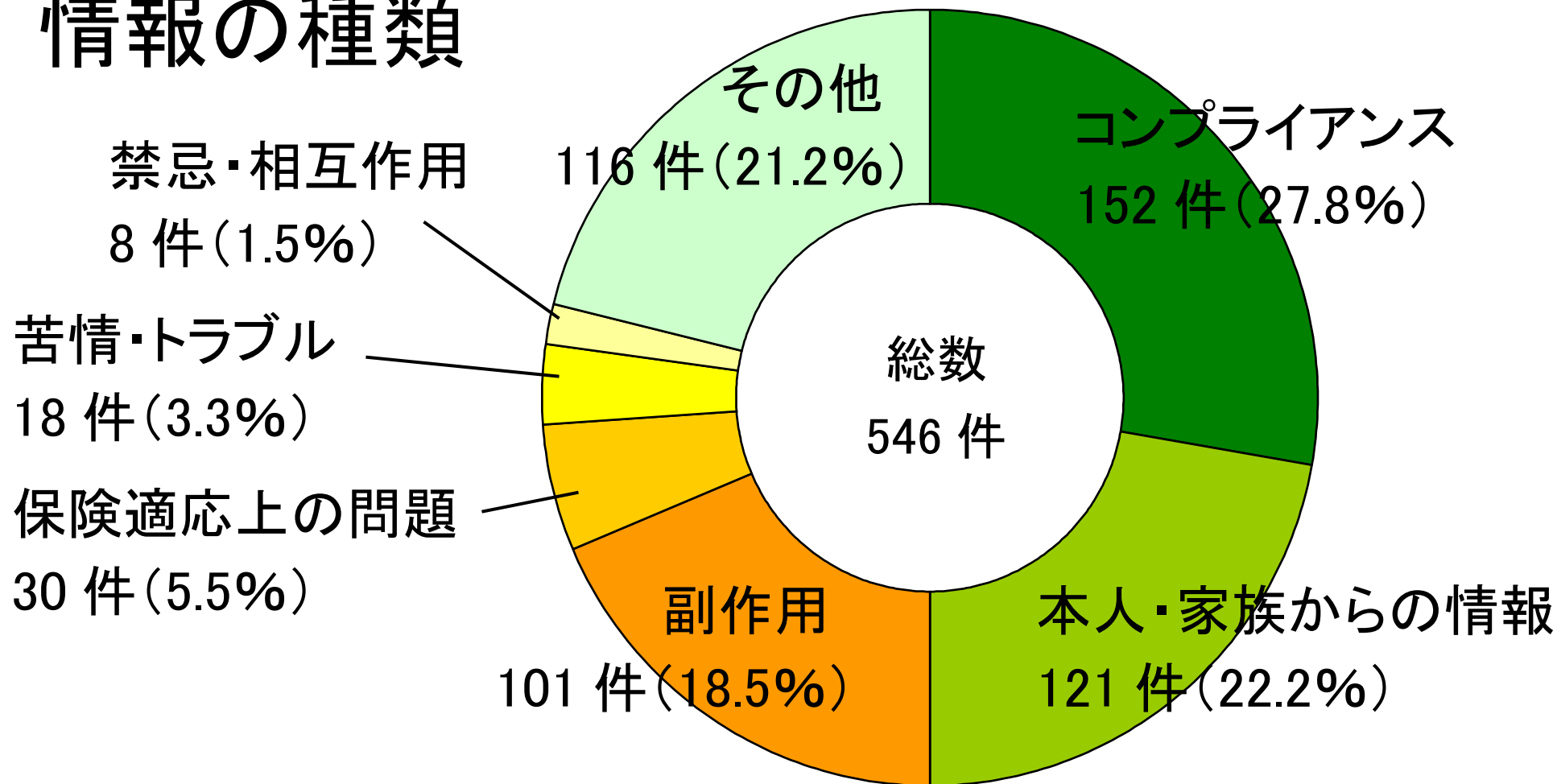
インフォメーション総数: 546 件

月平均: 12.4 件 (最少 4 件、最大 22 件)

### 送付先



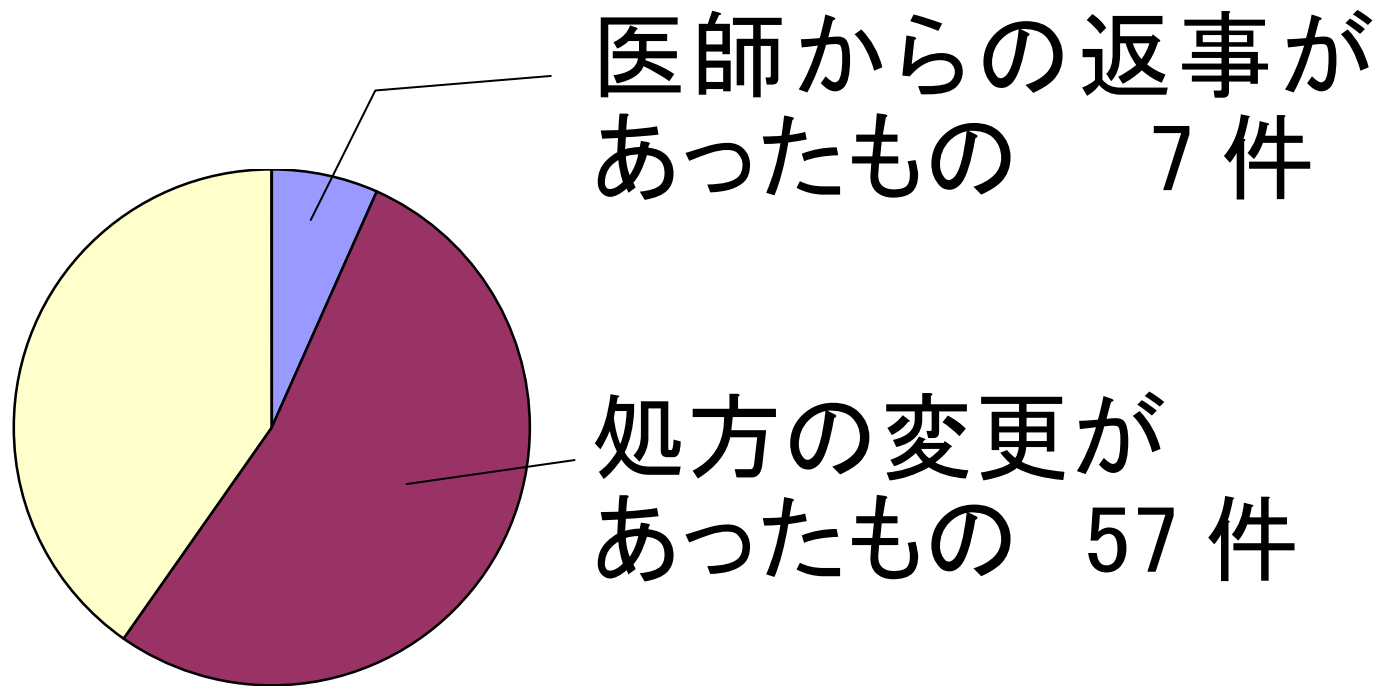
# 情報の種類



本人・家族からの情報: 本人や家族が医師に相談・報告できなかったことや言い出しにくいことなど。

(直近の1年間)

2009.8～2010.7 のインフォメーションに対して



$$\frac{(7+57) \text{ 件}}{\text{総件数 } 107 \text{ 件}} = 59.8\%$$

## 症例1 81歳 男性 コンプライアンス

一包化にて朝夕食後の薬を服用している。  
加えて、毎食後に粉の胃薬も服用している。  
本人より「胃薬だけ箱にたんまり残っている。  
昼食後の分はほとんど飲めていない」という  
声が聞かれた。昼食後服用の必要性和錠  
剤への変更を検討して欲しい。

⇒胃薬が錠剤になり、朝夕食後で処方されたの  
で、全ての薬が一包化に入るようになった。

## 症例2 75歳 男性 本人からの情報

血圧は普通(120~130)なのに降圧剤が処方されていることに納得がいかないし、不安である。医師に内緒で実は服用していないと言う。処方意図を確認したい。

⇒内頸動脈の狭窄が見られるため、血圧120以下を目標にするよう話していたが、理解されていなかったようだと言われた。医師の返答があった。その後、医師から説明を聞いて納得された。



## 症例7 74歳 男性 副作用

顔にひきつりが起こるため、筋肉をほぐす薬を2錠・分2・朝夕食後で服用している。朝に服用すると、昼ごろに眠気が出てくる。頓服でも同じ薬をもらっているが、ほとんど服用していない。

⇒1錠・分1・夕食後の処方に変更。頓服の処方は中止となった。

## 症例4 85歳 女性 その他

家族よりジェネリック医薬品への変更希望があった。先発品とジェネリックでは適応症が異なる医薬品が含まれていたため、該当するかどうか確認したい。

⇒該当しないとのことで、希望通りジェネリックへの変更を行った。

## 症例5 65歳 男性 その他

今回より、カリウム値を下げる薬が増量となっているが、腎機能の悪化によるカリウム値の上昇があったのか？この方は以前より、腎機能が低下している方には注意すべき抗尿酸血症薬を服用されている。薬剤減量の指標を示した。

⇒抗尿酸血症薬は減量となった。

## 症例6 89歳 女性 その他

ヘルパーより、シツプが手付かずのまま、2回処方分くらい残っている。何に使うとも聞いていないし、家族が貼られている様子もない。必要なのか確認して欲しい。

⇒シツプの処方は中止になった。

### 症例3 93歳 女性 その他

(訪問看護師より)下痢気味で肌着を汚していることが多い。便秘薬が2錠・分2・朝夕食後で一包化に入っているが、一包化より抜いて別包し、朝の薬にホッチキス止めして欲しい。体調を見て服用を調整したい。用法の変更と別包指示を依頼した。

⇒便秘薬は1錠・分1・朝食後で処方され、別包指示がついた。

## 症例8 76歳 女性 本人からの情報

(在宅サービス担当者会議にて)

インスリン注射時に時々内出血を起こすことがある。手技に問題はなさそうなので、針の規格を8mm から5mm に変更してみてはどうか。

⇒針が8mm から5mm に変更となった。本人からは使いやすくなったという声が聞かれた。

## 考察

- 基幹病院である吉祥院病院以外への情報提供数は以前より増えていますが、少数にとどまっている。
- 情報提供後に医師から返事があったり、処方方が変更になったりと、多くの例で情報が活用されていることがうかがえる。
- 情報提供の内容としては、コンプライアンスを高めるために調剤方法や用法の変更を

促すもの、本人や家族からの情報で生活や体調、服薬の状況を伝えるものが多い。

- 診察時に相談・報告しきれないこと、言い出しにくいことを薬局で話される方がたくさんおられることが改めて分かった。
- 在宅医療・介護に関わるヘルパー、訪問看護師、ケアマネージャーなどからの情報を踏まえてのインフォメーションも増えてきている。



## まとめ

薬局が病院へ情報を提供し、積極的に治療に関わることで、解決する問題が少なからずある。患者さんの相談窓口にもなれる薬局が、病院との連携を強めることは、よりよい医療を行うために必要なことだと思われる。その手段の一つとして、今後もあゆみインフォメーションを活用していきたい。また、在宅患者さんの中には、ヘルパ

一・訪問看護師・ケアマネージャーなどからも情報を得ることが、より患者さんに適した服薬ケアの提供につながっていると思われる。患者さんにも他職種の方にも、薬局は相談をしてもいい場所なのだと、もっと思ってもらえるように、こちらから働きかけていきたい。薬のことで気になることがあれば、ぜひ薬局に相談して欲しい。